

視察報告書

委員会名	建設産業常任委員会					
視察日時	平成 28 年 10 月 27 日（木） 14 時 30 分 ～ 16 時 00 分					
視察先	市町村名	真庭市	人口	47,469 人	面積	828 k m ²
視察項目	バイオマスタウン構想に関する調査					
視察参加議員	田原耕一、寺崎強、伊藤千代子、中村進、那須英仁、波多江貴士、藤井芳広					
視察随行職員	友岡卓也					

視察概要

岡山県北部に位置する真庭市は、鳥取県と接しており、面積の約 80%が森林である。古来より木材を燃料にした「たたら製鉄」に始まる。ヒノキ 72%、杉 22%である森林を利用した地域活性化を目的に循環型社会の構築を目指している。主に飼育頭数日本一ジャージー牛のバイオマスたい肥による土壌づくり、おがくずを利用したきのこ菌床、生ごみからメタン発酵で農場へ液肥として還元、廃食油からバイオディーゼルの製造などに取り組む。特筆すべきは、木材利用によるものとして木質バイオマスとして未利用木材チップをペレット加工し、温水プールや床暖房にも利用している点である。ペレット価格は灯油価格より安価であり、個人住宅の暖房や農業用ハウス暖房にも利用され成果を上げている。工場併設型の活用として木材や樹皮を圧縮し固形燃料とするペレットを生産する銘建工業では自家発電にも利用し安価で安定生産に成功している。

市では木質バイオマスを発電に利用するために燃料の安定供給を図り、第一・第二集積基地を建設し、年間 8 万トンの原料が地域内外から集積されている。真庭発電所の総発電量は 1 万キロワットであり、総事業費 41 億円、売電額は 22 億円となっている。電力は FIT 制度により売電されており、未利用材に価値が生まれている。搬出した山主に確実に還元される木材流通管理システムを機能させ、林業の活性化へ繋げている。「バイオマス産業都市真庭」を目指す真庭市にとって、農業、林業、工業、商業の産業が連携し合い、教育、福祉、技術、文化など人々の暮らしと 1 つの輪で結ばれることを目指した地域循環型の構想となっている。

新産業として生まれた銘建工業の取り組むヒノキで作られる木質構造材 CLT はコンクリートに替わる建材としての可能性を十分に持っており、既に市内の公共施設で活用され建設されている。建築材として今後の世界市場に進出が期待されている。

意見（本市にとって活用すべき事項・課題など）

山林が荒廃する中、木材を資源として活用を見出した取り組みは我が市に於いても大変貴重な示唆を受けるものとなった。今回、バイオマス産業都市構想の指定を受けた糸島市においても地域循環型として身近にある「未利用資源」の活用のため、参加企業の誘導を重視すべきである。特に銘建工業の CLT の成功は全国的な森林の有り様にも一石を投じるものとなる。本市では視察地のような過疎債の恩恵はないが、総面積の 45%を占める森林の利活用について、木質バイオマスの視点から新産業を起こすことは今後最大のテーマであろう。市政も民間企業も真に「宝の山」が目の前にあることに気付くべきである。